

令和 6 年度 国語問題研究協議会 開催要項

1 趣 旨

我が国の国語施策について周知するとともに、国語をめぐる諸問題を取り上げ、改善の方法等について研究協議し、国語に対する関心を高めるとともに国語施策の充実に資する。

なお、本協議会は、国の国語施策の一環として、その普及と理解の促進を狙いとしている。

2 主 催

文化庁、栃木県教育委員会、島根県教育委員会

3 開催方法及び開催場所

下記会場における対面開催（後日オンデマンド配信）

会場：品川区立総合区民会館「きゅりあん」5階 第2講習室
（東京都品川区東大井 5-18-1）

4 開催日

令和 6 年 8 月 2 3 日（金）

5 日 程

13:00	13:10	13:30	14:30	14:50	16:50	16:55
開 会 挨 拶	国語に 関する 審議状 況報告	取組報告 1 及び 2	休憩	シンポジウム	閉 会 挨 拶	

※上記日程は都合により変更することがある。

6 内 容

- （1）テーマは「「国語に関する世論調査」に見る日本語の現在 一言葉、文字・活字文化を見つめ直す」とする。
- （2）取組報告 1 及び 2 は、各共催県教育委員会に選任された報告者が、それぞれテーマに関連する取組について報告を行うものとする。
- （3）テーマについての理解を深めるため、有識者によるシンポジウムを実施する。

○ 取組報告の題目及び発表者

取組報告 1 (島根県)

題 目：義務教育段階における敬語学習の現状

発表者：島根県教育庁 教育指導課 指導主事 籠橋 剛

取組報告 2 (栃木県)

題 目：適切な言葉遣いに関する授業実践

発表者：栃木県立益子芳星高等学校 国語科 教諭 高橋 美晴

○ シンポジウム登壇者 (五十音順、敬称略)

神永 暁 (国語辞典編纂者)

茅野 政徳 (山梨大学教授)

田中 ゆかり (日本大学教授)

司会進行：武田 康宏 (文化庁 主任国語調査官)

7 参加者

会場参加者の範囲は、主として次のア～オに該当する方とする。また、国語に関心のある一般の方に対して、後日、会場の様子をオンラインで視聴できるようにする。

ア 指導主事及び幼児教育・初等中等教育諸学校の教職員並びに大学等の教職員

イ 社会教育関係者、図書館関係者、報道・出版関係者

ウ 国及び地方公共団体の職員で、公文書の作成指導又は広報資料の作成に携わる者

エ 学校教育及び社会教育に携わるボランティアメンバー

オ その他、教育や企業研修等に関わっている者

8 参加・視聴登録方法

文化庁ウェブサイト (下記 URL) に示される参加・視聴登録方法に従って、本人が直接文化庁に申し込む。会場の収容人数の都合により、申込者の中から抽選で 50 名が参加可能となる。

http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kyogikai/index.html

9 その他

国語施策の説明については、上記文化庁ウェブサイトを示すリンク先でテーマ別の紹介動画を公開する形で実施する。

○ 国語施策の紹介動画

- ・ 国語施策について
- ・ 「敬語の指針 (答申)」
- ・ 「常用漢字表 (内閣告示)」
- ・ 「常用漢字表の字体・字形に関する指針 (報告)」
- ・ 「分かり合うための言語コミュニケーション (報告)」

令和6年度 国語問題研究協議会

「国語に関する世論調査」に見る日本語の現在
—言葉、文字・活字文化を見つめ直す—

令和6年8月23日 金
13:00～16:55

開催方法

会場での対面開催
(後日オンデマンド配信)

主催

文化庁
栃木県教育委員会
島根県教育委員会

各分野を代表する有識者3名を迎えて開催するシンポジウム(14:50～)

五十音順・敬称略



神永 暁

国語辞典編集者
元小学館辞典編集部編集長、NPO法人「こども・ことば研究所」副理事長

「日本国語大辞典 第二版」「現代国語例解辞典」「使い方のわかる類語例解辞典」など
多数の辞書を担当。
著書に「微妙におかしな日本語」(草思社)、「悩ましい国語辞典」(角川ソフィア文庫)等。



茅野 政徳

山梨大学大学院教育学研究科教授

小学校教諭の経験あり。国語科教科書作成にも携わる。
著書に「小学校国語科 教材研究ハンドブック」、「「まったく書けない」子の苦手を克服！
教室で使えるカクトレ」(監修)(いずれも東洋館出版社)等。



田中 ゆかり

日本大学文理学部国文学科教授
元文化審議会国語分科会委員

著書に「方言萌え!? ヴァーチャル方言を読み解く」(岩波ジュニア新書)、
「「方言コスプレ」の時代—ニセ関西弁から龍馬語まで—」(岩波書店)、
「読み解き! 方言キャラ」(研究社)、「なっとくする統計」(共著、講談社)等。

武田 康宏

文化庁主任国語調査官
「国語に関する世論調査」の実施に長年関わる。

プログラム詳細・申込方法は裏面を御覧ください。

「国語問題研究協議会」は、昭和25年以降、我が国の国語施策について、広く知っていただき、国語をめぐる諸問題について、改善の方法等を研究協議し、国語に対する関心を持っていただくことと、国語施策の充実に資することを目的とし、毎年度、開催してきました。令和6年度は、東日本地区・西日本地区合同で、東京の会場における対面形式による開催とし、有識者によるシンポジウム、国語問題に関わる取組報告を実施します。学校の国語科教育に携わる方をはじめ、国語に関心のある方の御参加をお待ちしています。

タイムテーブル

13:00	開会挨拶
13:10	国語に関する審議状況報告
13:30	取組報告1 及び 2 取組報告1 題 目 「義務教育段階における敬語学習の現状」 発表者 島根県教育庁 教育指導課 指導主事 籠橋 剛 取組報告2 題 目 「適切な言葉遣いに関する授業実践」 発表者 栃木県立益子芳星高等学校 国語科 教諭 高橋 美晴
14:30	休憩時間
14:50	シンポジウム
16:50	閉会挨拶



プログラムは都合により変更になる場合があります。

教育長からのメッセージ

阿久澤 真理 栃木県教育委員会教育長



生活環境や言語環境が急速に変化する社会を子どもたちが生きていくためには、自らの思いや考えを的確に表現できるコミュニケーション力を高める必要があります。栃木県からは、「国語に関する世論調査」を活用し、自分自身の言葉の使い方に気づくとともに、実社会で必要とされる言葉や表現について考える、高等学校での授業について報告します。

野津 建二 島根県教育委員会教育長



日本語のコミュニケーションにおける大事な要素である敬語については、「国語に関する世論調査」でも繰り返し取り上げられていますが、敬語の使用に課題を感じている人は少なくありません。本県からは、敬語を系統的に学ぶ主な機会である小中学校における敬語学習の現状について、全国学力・学習状況調査やアンケートの結果をもとに報告します。

会 場

品川区立総合区民会館「きゅりあん」5階 第2講習室

東京都品川区東大井5-18-1

JR京浜東北線・東急大井町線・りんかい線「大井町駅」徒歩約2分

お問い合わせ先

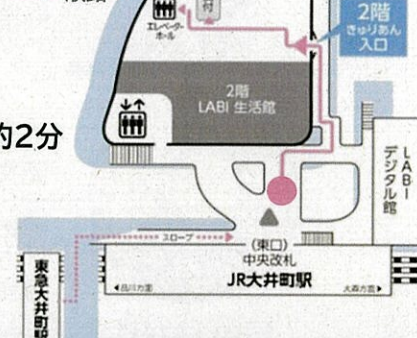
文化庁国語課(担当:町田)

連絡先: 03-5253-4111(内線2842)

メールアドレス: kokugoiken@mext.go.jp

【会場図】

→ 順路



参加 申込方法

文化庁ウェブサイト(下記)からお申し込みください。

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kyogikai/

